

4月29日から30日の2日間実施された、附属校新任教諭APU研修。附属校の教員自身が「生徒に『APUの魅力』を語れるようになる」ことを目標に、APUで研修を深めました。APU通信では、先号に引き続き、リレー形式で、『教員の視点から見たAPU』をお届けします。

APU 研修レポート

立命館慶祥中学校・高等学校 松原 直紀

「大学ってどんなところ？」 それぞれの大学はそれぞれの良さを持っています。
では、「APUってどんなところ？」 大分県の別府市にある立命館アジア太平洋大学（Asia Pacific University：APU）は、みなさんの想像を超える環境があるところです。

知的な欲求の高いみなさんは、高度な専門性を学ぶことに興味があるでしょう。しかし、大学で学んだ後、みなさんはどうしますか？ 多くの大学生は就職します。大学院に進学する学生もいますが、いつかは就職します。現代社会はグローバル化が進み、日本の企業の多くは海外を視野に入れて事業展開しています。諸外国を相手に大学で学んだ専門知識だけで実践できるのでしょうか。さらに、交通網やインターネットの発展により国外の人たちが身近になっています。このように国際化が進む社会において日本国内だけで物事を完結するのは難しくなっています。では、何をしなければならないか。この一つの答えがAPUにあるのではないのでしょうか。

人間は一人ぼっちでは生きていけません。必ず他の人間と関係をもちながら生活しています。普通に生活しているだけでもコミュニケーション能力が養われていきますが、それでは十分ではありません。言語や文化の異なる人たちと深い関わり合いをもてますか？

APUは日本国外から多くの留学生が学びに来ています。留学生と深くかかわり生活することがAPUでは可能です。日本語も日本の文化も十分に理解していない相手と、相手の言語も文化も良くわからない日本人学生が共に大学生活を過ごしています。日本の学生は、大学生活を通して日本語以外でのコミュニケーション能力を育み、日本以外の文化を受け入れる感性を養うと共に、自分の母国である日本についてもしっかりと見つめ直すことができます。自らを見つめなおすことは新しいスタートにつながります。APUの学生は、自らを良く知り、相手をよく理解し、そして世界に目を向けています。

APUってどんなところ？ 日本語以外の授業が多く英語（外国語）に強くなれる。留学生と触れ合う機会が多く、コミュニケーション能力が高まる。APハウスで海外生活を味わえる。などなど、世界へ向けた活動の準備ができる場所です。答えは人それぞれ違いますので、是非一度、自分自身で感じてみてください。本やテレビ、インターネットで知っている世界が身近に広がっています。



APU 学生へのインタビューの様子

2013 年度 附属校新任教諭 APU 研修レポート

立命館守山中学校・高等学校教諭 犬飼 龍馬

そうだ。APU があるじゃないか！

アベノミスクの効果か、日本の自動車産業を中心に日本経済に復活の兆しが見え始めている。しかし例えば、トヨタ自動車は工場を国内に戻すつもりはないようだ。それは物流コストを削減するためであり、安い人件費で働く海外の労働力を使うためでもある。ともかく、今や世界の産業は地産地消が主流となっている。そのため各企業は、自社の将来を担う人材に、世界のどこでも働ける力を求めている。

しかし現代の日本の学生は海外に行きたがらない。留学をする日本の学生は減少の一途を辿っている。そのため、パナソニックなどの国内有名企業のいくつかは、もはや日本の学生よりも海外の学生を多く採用している。

そこで APU である。学生の育成システムについて、ある雑誌で APU は全国 3 位の高評価を得ている。つまりこれは、APU の学生が経済界の求める、世界のどこでも働ける力を持っているということである。この力は具体的には、国境を越えるコミュニケーション力、異質なものととの協働、競争に対応する力、タフネス、チャレンジ精神である。

まず授業において、APU はこれらの力を育てる。APU の学生は普通の授業において必死の取り組みをする。普通の授業で APU はグループディスカッションやグループ発表が頻繁に課される。主体的な学びを担保するこれらの授業は、逆にいうと主体的にならないと授業についていけないのである。したがって学生たちは必死で授業に取り組む。この授業で海外の学生と協働して学ぶことで、学生はどんどん伸びていくのである。

次に言語教育の取り組みにおいて、APU はこれらの力を育てる。APU はそもそも、英語 20 単位が卒業の要件なのだが、それに加え、年 10 回もの TOEFL、TOEIC 受験機会が得られる。1 回でだめでも 2 回、3 回、何度も何度もチャレンジすることで学生は英語力を伸ばすと同時にチャレンジ精神を身につけていく。

次に寮生活において、APU はこれらの力を育てる。寮、AP ハウスでは世界中の学生が集まる。当初は言葉もろくに通じない相手と相部屋になり、必死でコミュニケーションを取りながら生活をする。刺激をし合う。この壮絶とも言っている毎日が学生のタフネス、国境を越えるコミュニケーション力を育てる。

授業で、寮で、異質なものを受け入れ、そこで協働して新しいものを創り、自分を磨く。これは実はハーバード大学でやっていることであり、ハーバード大学の強みである。しかし、ハーバードに行かなくても、APU に行けばそれがそのままあるのである。素晴らしい大学である。

そうだ。APU があるじゃないか！



(AP ハウスの様子。右から共同のキッチン、自治組織のメンバーの写真、ロビーのプレイスポット)

—はじめに—

日本は、政治も経済も空回りが続き、「この国は、これからどこに向かおうとしているのだろう」という不安が人々の心を過ぎっています。このような不確かさを抱える国を谷川俊太郎は、「郷土としては愛するが、国家としては憐れむ」と表現しています。このような状況だからこそ、「国家百年の計」である教育の世界で、「今、グローバル人材を生み出さなくてはいけない」という前向きな方向性を打ち出されなければいけないと常に思っています。今回、この課題に真剣に取り組んでいる国際型大学を訪問しました。



大分県別府市にある国際型大学「APU」



世界を感じることができる大学「APU」

この国際型大学とは、九州大分県別府市に開校された「立命館アジア太平洋大学」(APU)のことです。この大学は、次世代のグローバル人材の育成を目的に、世界を身近に感じることができる学習環境を整備し、大きな目標に向かう学生を生み出す高等教育機関であると感じました。そこで、私はこの大学を「国際型大学」と呼び、企業が求める人材を排出している大学ランキング3位のその秘密を紹介したいと思います。「国際型大学」と呼ぶべき要因として次の5つがあります。

- 1) 国際学生の比率の多さ
- 2) 日英バイリンガル教育環境の充実
- 3) 探求型を中心とした授業形態の実践
- 4) 学生主体の真のサークル活動
- 5) 寮生活の制度の工夫



1) 多様性に富んだ環境の重要性

世界で活躍できる人材の素地として大切なことは、異文化や他者の異なった意見を受け入れる心です。それには、教育的な環境として多様性が重要です。様々な国籍の学生と共に生活をし、勉学に励むことによってそれらの力が培われます。また、異文化の中で自国の文化を理解する力も同時に育てることができます。

ここ APU には、学生の約半数が他国籍であり、他の大学にはない素晴らしいものが存在します。このような環境の中で大学生活を送ることができれば、海外へ留学をしなくても良い環境が提供されていることとなります。

2) 日英2言語を越えた教育環境

大学の中では、日本語や英語の他に様々な言語が飛び交っています。そのため、日英のバイリンガルの習得は当然の環境の上に、更に第3言語への興味、関心を持つことができます。これにより、世界感を良い広く持つことができ、同時に自分の可能性を広げることに繋がっています。

人間同士でのコミュニケーションで最も重要なことは、言語での意思疎通がどれくらい可能であるかです。もちろん、その他の要素も重要ですが、自分の考えを伝える方法として言語は、最大の武器だと思います。

この武器を持てる大学がここ APU であると感じました。言語指導者からの言語教育だけでなく、学生同士が教え合う言語習得が存在することは、とても珍しく、APU ならではの環境環境と言えます。



3) 実学を重視したカリキュラムと施設の充実

基礎的な知識や専門的な知識を学ぶことは重要です。しかし、それらの知識を実際に活用することができる機会は、それほど多くはありません。APUには、グループでの共同作業の授業が多く設定されているため、自分の知識の活用や再構築、知識の不足や誤認などの確認が自然にできるようなカリキュラムにも特徴があります。



グループでの作業のための専用部屋なども多く設置されており、壁の全体にホワイトボードが設置され、いつでもプレゼンテーションや討論ができる専用スペースがあります。

図書館は、2つの環境に分かれており、1階は話しができる空間であり、2階は私語などができない空間になっています。そのため、1階ではいつでも、どこでも学生同士が話し合える環境になっています。

これこそが、実学を重視した授業内容となり、コミュニケーション能力の向上や発進力、表現力の育成に寄与していることに繋がります。



4) 起業家への夢とアジアを中心とした支援活動

APUの特色の一つでもある「夢プラン」は、とても内容の濃いものです。学生が実際に計画をしたことを個人やサークルなどの活動で実際に実現させていくものです。

ある男子生徒は、高校時代に出会った起業家と大学でも連絡を取りながら、インターンシップを続け、自分にしかできないスキルを磨いているそうです。将来は、自分も起業をお越したいと願い、夢と希望に満ちあふれた話に感動しました。

また、女子学生のサークルの話では、タイの教育支援活動を通して様々な体験や失敗を繰り返しながらも他国での支援の仕方やその難しさを学んでいました。このような活動に対しては、大学が公認サークル活動として支援している制度もとても素晴らしいと思います。



5) 自立こそが成長の糧

APUには、素晴らしい寮があります。入学の1年間は、原則全員が親元を離れ、寮での生活を体験することになっています。入寮体験をすることで、ルームメイト(日本人以外の国籍の学生)とは、英語で意思の疎通を図らなければいけません。意図的に異文化交流の環境に置かれます。

この環境で生活した学生は、多様性はもちろんですが、異文化であるが故に起こる様々な課題を解決しなければなりません。訪問中に国際学生(日本以外の国籍を持った学生のこと)にインタビューを実施したところ、日本人はとて恥ずかしがりやで、英語での主張や意見を出すことが少ないため、友人になることに時間がかかるとの報告がありました。

この課題を解決するのが、国際学生との強制的な交流と行事などにあります。また、親元を離れて、洗濯、清掃、自炊などの体験させることも実施しているため、自立のスピードが自宅から通学している学生より遥かに速く、その分卒業してからのバイタリティーの基になっていると感じました。

—終わりに—

「異文化理解とその尊重を通じて、よりよい、より平和な世界の構築に貢献できる、向学心と知性に富んだ、思いやりのある若者を生むことにある。」これが、IB(国際バカロレア)の使命宣言にある目的です。今回、APUを訪問して、この使命宣言の実践校として大きく推薦をしたいと思いました。是非、私が勤務している中等教育学校でもこのような実践をしていく必要があると痛感しています。

最後に、海外のどの地域でも対応できるグローバルな人材を生み出しているここ「立命館アジア太平洋大学」を多くの生徒に知ってもらい、優秀な学生が進学してほしいと心より願っています。

『APUの魅力とは?』

立命館中学校・高等学校 教諭 金原 玄

APUに行ってみず驚いたのは、大学の立地場所。山の上に建てられたキャンパスは別府市内を一望できる。しかしながらとても不便な場所にある。これで学生が入学して不便な思いをしていないのか?と思いたくなる。しかし、学生にインタビューをしてみると不便さも魅力のひとつ。しかも、それ以上ものが得られるからこそ、この大学を選んだとの声が多かった。このAPUの本当の魅力とは何か?学生インタビューや私が実際キャンパスを歩いてみて感じたことを載せさせていただき、APUの本当の魅力を伝えたいと思う。



なぜそこまでこのAPUに魅力があるのか?それは、この大学の教員と生徒の実態にある。全教員数・生徒数の中で国際教員・国際学生が半数を占めるというAPU。キャンパスを歩いてみると英語や日本語だけではなく様々な言語が飛び交っており、まるで日本にいながら外国にいる気分させられる。たくさんいる国際学生の多くは、短期の留学ではなく、本科生として学んでいる。これが、APUの強みのひとつかもしれない。本気の国際学生がいるからこそ、互いを刺激し合える、そんな環境がすべての学生を本気にさせる。

たくさんの国の文化が入り交じっているからこそ、APUでは相互理解が必要であり、人間関係を築いて過ごしていくためには、積極的にコミュニケーションをとることが求められる。そういった普段の何気ない学校生活でしなければならないことが社会で求められている「グローバルな人材」に繋がるのだと思う。そんな環境があり、さらに周りに誘惑される娯楽がなく隔離された環境であるからこそ、真剣に学業に取り組めるのかもしれない。APUの学生にとってはある意味、人と人の繋がりをすなわち異文化を理解し会話することが唯一の娯楽なのかもしれない。



特に、APハウスと呼ばれる寮は、APUの近くに建てられており、国際学生7割、日本学生3割の割合で共同生活を行っている。だからこそAPUの学生は語学力の向上スピードと異文化理解がとてつもなく速い。実際にインタビューした学生もこんなことを言っていた。「不便を感じることはあるが、この大学に入学した理由がグローバル社会に対応できる人物になることだから、この隔離された環境こそがいいんです。」

APUの魅力は、もちろん教育システムやグローバルな大学ということもあるが、一番の魅力は先ほど述べた環境にあると思う。国際学生の多くは、たくさんの異文化に触れその国の人と繋がりを持つことが目的で入学を決めている。APUは学舎・教育システムをグローバル化しただけでなく、そこに集う人をグローバル化したのである。外国人が外国人でない。APUは80カ国以上の人たちが集まってきている場所であり、ここでは国という垣根が存在しない。人種・宗教の国境が無く、

どの国・宗教の人であっても外国人ではなくひとりの個性を持った「ひと」として接してくれる。APUの本当の魅力は、大学自体ではなくそこに集う国際教員・国際学生の多さによって築き上げられた、国際異文化の学びの環境であったのだと気付かされた。

Shape your world
APU
Ritsumeikan
Asia Pacific University



APU通信

2013年5月号

発行 立命館小学校 山内彩

小さな「世界」

3つの「50」。何の数字が分かりますか？

- ・国際学生の割合 50%
- ・学生の出身国・地域 50カ国・地域以上
- ・外国籍教員比率 50%

別府の街を歩くと、様々な言語が耳に入ってきます。地元の方に話を聞くと、APUができてから、別府の街は留学生や海外からの旅行者があふれ、人口比率では日本一の国際都市になったそうです。世界中から「学びたい」と意識の高い学生が集まる場所、それがAPUです。

APUのキャンパスに一歩足を踏み入れると、日本にいる感覚を忘れてしまいます。休み時間に日あたりのいい階段で英語で打ち合わせをするグループ、レッドカレー、四川拉麺など国際色豊かなメニューが並ぶ学食。英語で表記された看板。ある学生が、APUのことをこう表現しました。

「ここは Compact World です。」

世界を味方につける

APUの一番の特色といえるのが、APハウスです。国際学生と日本人学生と一緒に生活をする寮です。その比率は国際学生が7割と、日本にいながら留学生活が体験できます。学生たちに話を聞くと、それぞれの国の料理を一緒に教えあったり、一緒に大浴場に入ったりするそうです。親元を離れて初めて一人で生活する学生がほとんどですが、シェアハウスのパートナーや同じフロアの友人と助け合って生活しているようです。これだけ多くの国や地域の友人と共に生活することで、世界で活躍するために必要な相手の文化を受け入れる姿勢や、柔軟なコミュニケーション能力も自然と身に付くことでしょう。



豊かな自然の中にある、広大なキャンパス。山頂からの眺めは最高！



さすが！図書館には、各国の新聞が揃っています。「話せる図書館」として、学生のミーティングなどに利用されています。



世界に出る準備をする場所

APUでは、学生を「学ばせきる」授業カリキュラムや環境が整っています。8割の授業が2カ国語で開講されており、日本人学生にも英語での科目履修が必修だそうです。国籍の違う学生たちが、意見を出し合いながら進めていく授業や、英語でのプレゼンテーション等を通して、「必死に学ぶ」姿勢が身につくことでしょう。その成果として、国境の壁をやすやすと超えるコミュニケーション力や、異質なものとの協働力などが、企業からも注目されています。世界を舞台にして活躍したい！自分の夢を実現したい！自分をとことん鍛えてみたい！という人は、是非APUの門戸を開いてみてください。

先輩からのメッセージ

APUは学ぶ環境として最高です。APUでこんなことがやりたい！ 熱い情熱があればきっと有意義な4年間が過ごせます。

最初は英語が苦手でも大丈夫！もっと話したいと思える環境が、自然と英語力に結びつきます。

志の高い友人たちに出会い、自分の将来の夢の幅が広がりました。